



ベスト
ショット
2011



選手宣誓

主将 朝比奈由起



期待の大型右腕 高山投手



第2回北関東大会・準優勝



土井堅斗投手 昨年秋からチームを引っ張るエースとして活躍。制球力を上げようと冬から春にかけて、フォーム改善に取り組んできた。ここに来て安定度増してきた。北関東大会の優秀選手になり、暑い夏を乗り切るスタミナもある。今後の活躍が楽しみだ。

野球が大好きな子供達へ・入団募集中！ 逞しい青少年育成に全力で取り組む、NPO法人小山ボーイズ球団

Never give up your Dream・・・あきらめない気持ちが未来を変える

小山ボーイズニュース

NO. 28

発行責任者

〒323-0820 栃木県小山市西城南7-6-9 N.P.O法人小山ボーイズ球団 飯田研二

全力投球・全力疾走、自らの手で感動の最高の夏を！

全国予選・北関東大会戦績

○5月21日 大利根球場（加須市）
北関東大会一回戦

大田ボーイズ（群馬）

000100001 （投手）土井

1301000×5 （捕手）門屋

小山ボーイズ

（三塁打）朝比奈 （二塁打）服部

○5月22日 日本ケミファG（筑西）
北関東大会二回戦

筑西田宮ボーイズ（茨城）

0000000 （投手）四反田

2042×8 （捕手）高山

小山ボーイズ

（本塁打）橋本 （二塁打）藤井

○6月18日 三和野球場（古河市）
北関東大会三回戦

鹿沼ボーイズ

000000000 （投手）土井

0030000×3 （捕手）小藤

小山ボーイズ

（三塁打）小藤

北関東大会準決勝

小山ボーイズ

20004039 （投手）四反田

00400004 （捕手）小藤

喜多方ボーイズ（福島）

（三塁打）朝比奈 （二塁打）野沢

雨で順延になり、大会期間が一ヶ月

にもなった北関東大会。チームにリズ

ムが出て粘り強く戦えるようになった。

初の決勝進出の原動力は、三年生たち

の頑張りでした。さあ、決勝です。

○6月19日 栃木県営球場

北関東大会決勝

小山ボーイズ

000000000 （投手）土井

0010000×1 （捕手）小藤

宇都宮スターボーイズ

（三塁打）門屋

*緊迫の投手戦、一度の失策・一度の失投を反省し、再度頑張ろう。

○6月5日 関谷南公園野球場

全国選手権大会支部予選二回戦

宇都宮中央ボーイズ

10001 （投手）土井

325111 （捕手）高山

小山ボーイズ

（本塁打）橋本 （二塁打）朝比奈

小藤・高山

全国選手権大会支部予選準決勝

大田原ボーイズ

03002139 （投手）藤井

10000001 （捕手）四反田

小山ボーイズ

（三塁打）小藤

○6月12日 栃木県営球場

三位決定戦

栃木ボーイズ

01000001 （投手）土井

010030×4 （捕手）小藤

小山ボーイズ

（二塁打）南村

選手たちは、目標は全国大会という

意気込みで、練習に明け暮れていた。

胸中を察するに、敗戦という現実には

悔し涙と失望感があつた筈、3位決

定戦の接戦を制した気力に拍手を送る

はじめての公式戦

橋本哲志

三年・野木中

白いボールは、

大きな弧を描いて

右中間のフェンス

を越えていった。

5月の連休には

まだ一年生チーム

の中で、後輩の面

倒を見ながら、黙々



とバットを振っている橋本がいた。」「

「腰はもう大丈夫か」「はい、大丈夫

です。」でも、本人は不安で一杯とい

う表情だった。腰が治ったならとティ

バッティングをししばらく付き合った。

3年生の5月、小山ボーイズのユニ

フォームを着て、試合に出られる時間

も少ないので、万全なら慌てないと。

仲間たちと試合に出たい気持ちと出

ても足を引く張るだろうという気持ち

が交錯し、複雑だったに違いない。

橋本は長い間腰痛に悩まされ、元気

な姿でプレーをしていたという記憶は、

一年生の頃に少しあるだけだ。医者通

いと練習を手伝う毎日だった。確かに

同級生と比べると走った数も量も少な

いが、耐えることで鍛えた気持ちは負

けなかったのだろう。結果はすぐに表

れた。5月22日公式戦初本塁打が出

た。低く構えてコンパクトに振られた

バットに又しても感動した。橋本の短

いシーズンにはスタートしたばかりだ。

野 球 塾

顧問 鷺谷 尚

自宅の庭にボランティアの野球塾を開いてから、かれこれ十年になる。長い間お世話になった野球界へのささやかな感謝の思いからである。近隣市町から、多いときには二十人近い小中学生や、中には高校生もやってきた。

私は野球全体には精通していないが、マウンドから眺めた野球は、極めて多く経験している。その経験に基づき、主に投手の基本を指導している。

私が目指す投手像は、一にコントロール二にコントロールである。ややもすれば、球速に走りがちな子供たちに、まずそのことを理解させることが大切だと思っている。

捕手の要求するところに、要求する球種を投球するのが投手の役割である。それが出来なかったら野球は始まらない。制球の確率は、小学生で六割、中学生で七割、高校生からは八割を目標に設定している。

○**第一ステップ**は、外角へのストレートをクール（十五球～二十球）、第一ステップで前述の目標をクリアできると第二ステップに進む。

○**第二ステップ**は、内外角へ五球ずつクール投げ込みます。

○**第三ステップ**は内外角へ三球ずつクール。

○**第四ステップ**は変化球とストレートを混合し内外角へクール（小学生は除く）。

○**第五ステップ**は、捕手のサインに従い、打者への仮想投球を三インニング行います。

この基本的なトレーニングを積み重ねることこそ、実践的なトレーニングに他ならないと確信しています。

投球のほか、一塁、二塁への牽制球の練習もメニューにあります。牽制球の意味については、以前ボーイズニュースでご紹介したことがありますが、刺殺は勿論、打者との間のとりかた、自らのバランスのチェックなど重要な意味があります。牽制球を身につけてこそ、はじめて一人前の投手と言えるでしょう。

ここでは投手のことを記述しましたが、野球は、それぞれのポジションを分業する共同作業です。お互いがお互いを信じ、着実に自分の役割を果たすことが最も大切です。喜びも悲しみも共有し、心から笑い熱い涙を流してください。

塾開設時からサポートくださった、小山ボーイズ新島監督、白沢コーチはじめ、現在も熱烈なご指導をくださっている川村紀明、鈴木和芳、佐藤忠、近藤岩夫、岩崎明、高島孝一各コーチに心から感謝します。（了）

*鷺谷さんは、71歳の青年で今でも古希野球チームでエースとして投げ続けているアスリートです。

惜 敗

栃木県支部1年生大会

平成23年6月26日

県営C球場

栃木県支部10周年記念1年生大会 1回戦

小山ボーイズ 0 0 0 0 0 0 1 | 1

宇都宮スターボーイズ 0 0 0 1 2 0 × | 3

（投 手）井崎幹太・海老沼啓介

（捕 手）高橋祐太

（三塁打）高橋翔大

（二塁打）池田翔貴

1年生大会は3年前から支部の活動として、この時期に開催され、今年は全8チームが参加し、大いに盛り上がりました。試合は序盤押し気味の小山ボーイズに得点がなく、中盤バント守備等のミスで惜敗でした。

1年生23名が気持ちを併せて頑張ろう！！



旅行のことなら、
たび倶楽部
感動との出会い
たび倶楽部
海外旅行～日帰り旅行
ご相談は**たび倶楽部**
TEL 0282-62-2813

小山ブランド
おとん弁当
＜炭火焼肉 600円＞
これは美味しい！
話題沸騰中！
TEL&FAX 0285-23-5329

BASEBALL
PRO SHOP
石川スポーツ
TEL 0282-24-3161
専門スタッフが心からアドバイスをします。

LPガスHOTライン
本社（小山市出井）
0285-30-1011
下野支店
0285-53-7751
（株）トチネン

コラム

今にみている

3年生黒川健太郎は、5回裏スコア1対1無死走者1塁という場面、緊張を隠せない表情でバッターボックスに立っていた。「何とかしなければ、困り果てた表情だ。」

今年もボーイズリーグの夏季全国大会への出場権をかけた栃木県支部予選が始まり、戦前より、ハイレベルの戦いが予想され、上手く調整のできたチームが勝ち残るだろうとされていた。

我が小山ボーイズも総力戦を駆使し一丸となって戦うことで、候補の一角に位置できるだけの力は付けていたのだが・・・。

昨秋から、新人戦準優勝・東日本大会第3位・春季全国予選ベスト4とまざまざの成績を残していた。しかし、勝ちきれない内容は、攻守両面に渡り不安定な部分を多くあり、荒さの残るゲームが多いことだった。

3年生（7期生）たちは、1年生の時から先輩たちの全国大会出場やジャイアンツカップ出場・NOMOジャパン選出・全国選抜大会優勝・関東ボーイズリーグ大会優勝など眩しいばかりのキャリアを目の当たりにしてきた。選手たちは「僕たちも全国に行くんだという気持ちが空回りして、自信を失っているかのように写る。あこがれと現実のギャップに押しつぶされそうになって、自分たちのプレーができないのでは無いだろうか。」見えない圧力から解き放された時では遅い・・・と考えてしまう。

サインはバントだった。初球を小フライ、一塁手が取れずにファール。二球目が空振り。一気に追い込まれた健太郎は落ち着かない。これには伏線がある。昨秋の新人戦決勝で、バントを失敗し、絶好のチャンスを潰したことがあった。

黒川は、体が細く非力な選手だが練習では手を抜かないファイトのある選手だ。守備力は水準以上だが、打力に力強さが無いため、ベンチスタートが多くなっている。この日もスタートはベンチで、場面は初打席で追い込まれている状態。

○宇都宮中央ボーイズ戦

左腕土井投手の先発。1回表、順調な滑り出しのなか、四球・盗塁・安打で簡単に1点を献上する。粘れない、二死後の流れるような失点。動揺している様子はないが、よいリズムで勝ち上がりたい。結果、試合は11対1で勝利する。記録に残らない細かいミスが

気になる。

○大田原ボーイズ戦

横手投げの藤井投手が先発、幸先よく一回裏に相手投手のミスに付け込んで、ノーヒットで1点をもぎ取る。藤井は丁寧な投球で、初回を3者凡退とする。

2回表、藤井は1死から痛恨のデッドボール、次に右前に運ばれて1・2塁としたが、次打者を右フライに仕留めて、2死2・3塁。ホッとした瞬間の初球、右に3点本塁打を浴びてしまった。3・4回と立ち直るがチャンスをものにできずに敗戦。

最大の目標を失った7期生たちは呆然としていた。悔し涙と失望感だが、納得するしか方法はない。

敗戦・失敗の次にどうするか、ここが大きな問題で最大の勉強だ。「敗戦後の考え方が大切。」「絶望からの脱却だ」今、僕は何をやるべきか。「次に来る試合に万全の状態で臨むこと」「よい選手になるべく努力すること」である。あきらめなければ必ずよいことが起きる。



県営本球場で3位決定戦が行われていた。

相手は栃木ボーイズ、昨秋の春季全国大会予選準決勝で惜敗して以来の対戦。5回裏無

死1塁のチャンスにバッターは黒川、カウント2ストライク、投手はランナーの土井を警戒する。ボールが2球きたあと、パスボールでランナーは2塁へ、そしてカウント3-2のフルカウント。緊張の中、バントしたボールは一塁側に転がっていった。

チームのために、精一杯の犠牲バントで1死3塁のチャンスを作ることに成功した。小柄で非力な健太郎が精神的に追い込まれた中で、最高のパフォーマンスをみせた。ランナーは2年生の主砲小藤がタイムリーで見事に返して勝利した。立派な第3位だ。

華やかさは無く、試合の中の地味な場面だが、1人の選手の精一杯のプレーがチームを勝利に導いた。努力は必ず報われる。また感動の瞬間に出会えた。毎年多くの選手が感動を与えてくれる。この一打も忘れられないシーンになるだろう。

苦悩の7期生たちが、あらゆるプレッシャーから解き放たれて、最高の笑顔で3年夏を駆け抜けて、最高の結果を出してくれることに期待している。これからが本当のシーズンだから・・・。今にみている！

GO!GO!

OYAMABOYS
小山ボーイズを応援する会

twitter で最新情報をゲット
「OYAMABOYS」をフォローしよう